

1. はじめに

私達は日々多くの仕事や用件を抱えている。忙しさのあまり、「ここで何をやるんだっけ」とか「何を伝えなければならんだっけ」などといった失敗の経験はないだろうか？こうした混乱をさけるため、スケジュールなどのリマインダが用いられている。しかし、現在存在するリマインダのほとんどは時間にしか対応しておらず、特定の場所や人に対するリマインダは存在していなかった。

このような問題を解決するため、私達は TPO(時間・場所・機会)に基づくリマインダシステムを開発した。

2. 機能説明

本システムは時間、場所、人に対応し、簡単な操作で登録できるリマインダシステムである。無線 LAN 又は GPS を有する携帯端末 (PC、WindowsMobile、iPhone) をサポートする。

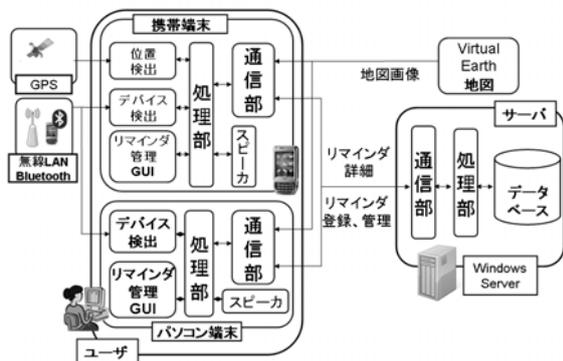


図 1 : システム構成図

2.1. TPO に対応したリマインダ

本システムは、従来の時間に対応したリマインダだけでなく、場所や人に対応したリマインダも登録することができる。

2.1.1. 場所リマインダ

指定した場所に近づいた時、離れた時などのような反応条件を指定することができる。GPS、無線 LAN、基地局を用いて位置情報を取得するため、地下、屋内など、どんな状況でも使うことができる。

2.1.2. 機会リマインダ

ユーザが携帯する端末情報を用いたリマインダを設定することができる。この相手が持つ端末情報を検知したときにアラームなどで用件を通知する。さらに、時間や場所との連携により効果的な通知が可能である。



図 2 : リマインダ登録画面 (PC 用)

2.2. サーバによる情報管理

登録したリマインダはサーバで管理されるため、リマインダ登録数は無制限である。このリマインダを様々な端末や、グループで共有することができる。

3. ユーザへの配慮

本システムは、ユーザの入力する手間を極力省くことでスケジュール管理の敷居を下げ、誰にでも使い易くするため、以下のような工夫をした。

- ・ 出先で時間がない時などにクリックで現在地等の情報を登録する。詳細情報は、自宅やオフィスで編集する。
- ・ 過去に登録したリマインダを履歴として残しておく、それを用いて件名や詳細、場所を入力する。
- ・ 地図やカレンダーを用いた視覚的なユーザインタフェースで場所や日付を入力する。
- ・ ユーザグループを設定し、登録したリマインダを複数人で共有する。
- ・ 複数の端末で共通のインタフェースを提供する。

4. 終わりに

TPO に対応することにより、様々な状況に対応したリマインダシステムを実現した。また、履歴や視覚的なユーザインタフェースでの入力や複数の端末でのインタフェースの共有を可能とし、誰でも使い易くした。多忙な生活の中で物忘れによる混乱を防ぎ、時間的、精神的にゆとりのある生活を支援する。

5. 参考資料

- 1) はじめての iPhone プログラミング
デイブ・マーク、ジェフ・ラマーチ [著]
鮎川不二雄 [訳]

- 2) MSDN

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/default.aspx>